

## 令和6年度 第2回 よこすか地域支え合い協議会 会議録

開催日時:令和7年(2025年)3月17日(月) 10:00~12:00

開催場所:正庁

出席者:【構成員】 森 弘樹、吉永 貴弘、春山 誉夫、市岡 竜太(代理出席)、磯崎 順子、  
上田 滋、白井 幸江、鈴木 礼、高橋 直人、清水 佳子、  
小松原 優斗(敬称略・順不同)

【事務局】福祉総務課 清家 悠里、有泉 奈津子

【傍聴者】1名

### 1. 開会

座長の司会により開会した。

### 2. 傍聴者及び配布資料の確認

傍聴者の確認を行った後、配布資料を確認した。

### 3. 議事

#### (1) 前回の振り返り

令和6年9月18日に開催した前回の会議について、概要を事務局から説明した。

#### (2) 生活支援団体及び居場所づくり補助金の交付状況報告について

事務局から、令和6年度の補助金交付状況について資料2に基づき報告した。

(以下、説明概要)

#### 【生活支援団体】

令和6年度、計24団体に対し交付。内訳は、24団体のうち、立ち上げ加算を利用した団体は9団体、活動保険料加算10団体、課題チャレンジ加算7団体、自動車加算1団体、活動件数加算は11団体。今年度新しく団体を立ち上げ、補助金を申請した団体は計5団体で、久里浜、田浦、大津地区で各1団体、浦賀地区で2団体となった。課題チャレンジ加算を利用した団体では、住民向けの学習会やスマホ相談会などが実施された。自動車加算については、今年度申請1団体にとどまった。しかし、自動車を使用した移動支援に対する関心は高く、本市主催で開催した移動支援をテーマとした学習会には各団体から30名を超える参加があった。こうした傾向から、今後申請件数が増加する可能性はあるため、加算メニューは今後も継続する予定としている。

### 【居場所づくり補助】

居場所づくり活動への補助については、令和6年度新設し、1団体に交付。駅前の空き店舗を活用したコミュニティカフェを運営する団体に交付した。週4日のコミュニティカフェ営業のほか、月1~2回、フラワーアレンジメントやおとなのぬり絵企画といったカルチャー的企画を実施。

(以下、構成員からのご質問)

### 【構成員】

移動支援の活動紹介の自動車加算のところで写真にあった(※)リフト付きで車椅子に乗せることができる車については、活動団体さんで購入されたのか。

(※)写真については、配布資料には掲載せず当日画面投影のみ。

### 【事務局】

元々ご家族のために所有されていた車であるが、自動車を使用したボランティア活動を行っているのご活用いただいているとのこと。この団体は、普通の乗用車での支援もっており、今年度から自動車を使用した支援を本格的に開始した。既に月150時間超える活動を行っている。

### (3) 各地域支え合い協議会の開催状況

第1層生活支援コーディネーターから、各地域の支え合い協議会の取り組み状況について、資料3に基づき説明した。

(以下、構成員からのご感想)

### 【構成員】

ボッチャは地域で流行っている。ボッチャを体験してみたいという団体のサポートを行うことがあるが、1回体験してみるとすぐボッチャを購入されるというケースもある。ボッチャがない場合には地域包括支援センターでも貸出を行っている。今、1回やったら次はまた絶対ボッチャやりたいと皆さんが言うくらい、それくらい没頭できるスポーツだと思う。

### 【構成員】

シルバー人材センターでも、昨年度に行われた、スカリンカップボッチャ大会に3人1チームの計2チームで出場した。作戦をうまく立てることができず、予選突破ができなかった。反省会では、来年こそ絶対に予選突破しようと盛り上がっているところ。

ボールのセットは、大会後に当法人で購入していただいた。コートを作成は大変だったが、テープを工夫することで、会員の皆さんで作成することができた。横須賀ルールにならいコートの広さを7割程度するなど臨機応変に対応している。皆さんお元気で、「交流ではなく大会にして順位を決めてほしい」との意見がでるほど熱中している。

#### (4) よこすか地域支え合い協議会の見直しについて

事務局から、よこすか地域支え合い講義会の見直しについて、資料4に基づき説明した。

(以下説明概要)

- ・よこすか地域支え合い協議会は、平成27年度から開催し、構成員同士の各地域支え合い協議会(第2層)との情報共有や、顔が見える関係・連携体制づくり、各地域支え合い協議会(第2層)が行う取り組みや活動サポートを行ってきた。
- ・運用の課題として、各地域支え合い協議会(第2層)が行う活動が、その地域やメンバーの置かれる状況に応じて様々な動きが出ている中で共通のサポートが難しく、よこすか地域支え合い協議会としての成果が見えづらいことや、支え手となる構成員の課題や様々な会議体への参加負担などがあげられている。
- ・上記の現状や、国の地域支援事業実施要綱の改正もあり、令和7年度からよこすか地域支え合い協議会の構成員は案件によって決定することとし、開催テーマを第一層生活支援コーディネーターによる様々な機関と協議・連携したいこととした。
- ・令和7年度のテーマ案として、市内の相談支援機関や地域の活動団体を検索できるシステムの導入を機に、関係機関や地域活動団体の情報の見える化の推進。更に、多世代交流の場づくりや、新たな地域デビューのきっかけづくり、介護事業所と地域活動者とのマッチング、地域活動のPRする場づくりとした。

(以下、構成員からのご意見・ご感想)

#### 【構成員】

事務局からの説明にもあったが、市役所だけで作っていくのではなく、地域の皆さんが主となってやらないといけない。横須賀市には360を超える町内会があって、頑張っている町内会が増えれば地域はもっとよくなっていくと思う。

こういった活動は行政から言われたから何かしようということではなくて、そこに住んでいる人たちが自分たちでなんとかしようという気持ちがあって町内会・自治会でやっていくからこそ繋がっていく。行政が「町内会・自治会をつくってください。こうやってください。」とだけいたら継続していかないのではないかと。行政が主導となってやっていって、たくさんの方が地域に出てくるようなかたちになればよいが、ここにいる構成員の皆様や地域の声をもっともって入れていかない。国からこんなにお金がついたからじゃあどうやって使っていくのかという考え方だとうまくいかないと思う。

#### 【構成員】

三点教えて欲しい。一点目は各地域支え合い協議会 8 か所ということで立ち上げの時期、二点目は自分の住まいではない地域の支え合い協議会の状況を知りたいとなった時に参加することはできるのか、三点目は第1.5層事務局の業務内容について教えて欲しい。

#### 【事務局及び第一層生活支援コーディネーター】

一点目の各地域支え合い協議会の設立時期について、立ち上がった順に大津が平成28年12月、追浜が平成29年2月、田浦が平成29年12月、浦賀が平成30年5月、北下浦が平成31年3月、久里浜が平成31年4月、少し間が空いて大楠が令和3年6月、武山が令和4年3月となっている。

二点目の他の地域支え合い協議会の参加について、ある地域からも「ほかの協議会と顔を合わせて話をしてみたい」という声もあがっているので、事務局としても協議会同士の交流の機会を検討している。そういった機会が作れたら、お声がけしたい。

三点目の第1.5層事務局の業務内容について、生活支援コーディネーターは地域に出向くことが多いので地域から何かやってみようという声があがってきた際に企画立案の支援や関係機関との連携調整などの事務的な部分体制が弱かったのが課題であった。第1.5層事務局はその事務サポートを行う体制を強化するということで設置したものである。

#### 4. 閉会

令和7年度からよこすか地域支え合い協議会は事務局提案のとおり新たな形での運用とすることとし、議事を終了した。

※この議事録は委員等の発言の要点筆記である。